

合鴨を利用した水稲栽培の実態調査							
【要約】 福岡県内における合鴨を利用した水稲栽培の普及状況を明らかにし、県下3ヶ所の実践事例から、同農法の技術内容・問題点、今後の課題を提示した。							
企画経営部・経営情報課					連絡先	092-924-2936	
部会名	生産環境	専門	経営	対象	稲類	分類	指導

【背景・ねらい】

合鴨を利用した水稲栽培は合鴨を水田に放し、水田雑草及び害虫を防除し、無農薬水稲栽培を行う環境保全型農業の一つの農法として注目されている。同農法は今後更に拡大すると予想されるため、実践農家の実態調査を行い、技術内容や問題点を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

- ①合鴨飼養戸数は全体で74戸、飼養羽数は約5,100羽であった。市町村別では、8市24町1村に普及しており、特に福岡市（14戸）、前原市（13戸）等が多い（表1）。
- ②水稲品種は特に限定されておらず、各農家とも疎植（慣行は22.2株/m²）栽培を行っている。施肥は化学肥料・有機質肥料ともに用いられ、水管理は常時湛水で、中干しは行っていない。雑草防除はノビエ以外はほぼ完全な防除効果が認められた。病虫害防除では、本年はウンカ類の飛来が極めて少なく、防除効果は十分に検定できなかった。紋枯病は慣行栽培との差は認められなかった（A・C農家）。収量は各農家の差が認められるが、販売はともに特別栽培米制度を利用しており、高い価格で取引されている（表2）。
- ③合鴨の購入は孵化業者から行い、価格は500円/羽程度である。水田への放飼時期は田植え後2週間前後で、放飼羽数は10a当り20羽前後を目安としている。水田放飼中の外敵からの防御は重要で、各農家とも電気柵を使用している。水田からの引上げは、出穂後の稲穂が垂れ下る前に行い、その後はハウス内や刈取跡地で飼養している。販売は、A農家は意欲的に行っているが、B・C農家は初年目で羽数も少ないため、地元の農業祭り等へ無料奉仕している（表3）。
- ④各農家とも農薬散布回避による健康への再認識や無農薬米の生産、地域・消費者との交流等をメリットと考えており、合鴨を利用した水稲栽培は楽しい米作り（農業）が実践できる農法として、今後の農業・農村の活性化に役立つものと期待される。しかし、合鴨の育すうや水田放飼中の管理等の労力的な問題や米・鴨肉の販売ルートの確保の問題も顕在化しており、普及拡大していくためには、これら問題への対応が求められる。

【成果の活用面・留意点】

合鴨を利用した稲作経営の参考資料として活用する。

【具体的データ】

表1 県内の普及状況（農林事務所管内別）

	福岡	八幡	筑後	甘木	飯塚	行橋	計
飼養戸数(戸)	31	1	12	5	15	10	74
飼養羽数(羽)	1,320	130	724	1,220	1,111	625	5,130

調査：畜産課

表2 調査農家の水稲部門（調査圃場）

		A農家	B農家	C農家
栽培 様式	圃場面積	4.1a	2.0a	1.0a
	品種	ヒノヒカリ	ヒノヒカリ	ミネアサヒ
移植 日	栽植密度	16.6株/m ²	15.0株/m ²	18.0株/m ²
	移植日	6月18日	6月18日	5月31日
肥 水 管 理	基肥(N-P-K)	硫安 (4.2-0-0)	乾燥鶏糞 (5.9-10.4-4.9)	ナタネ粕 (8-3.2-1.6)
	追肥(N-P-K)	なし	油かす(2-0.8-0.4)	なし
水管理		常時灌水(中干しはしない)		
合鴨 引上 げ時 雑草 状況	合鴨引上げ時	ノビエが点々	ノビエが点々	なし
	雑草状況	他雑草はなし	他雑草はなし	なし
病 害 虫	ウンカ類	本年のウンカ類の飛来は極めて少なく、慣行栽培との比較ができなかった。		
	紋枯病	慣行栽培との差はなし	慣行栽培との比較ができなかった	慣行栽培との差はなし
取 量		344kg/10a	467kg/10a	408kg/10a
販 売 方 法		特別栽培米	特別栽培米	特別栽培米
販 売 価 格		白米:720円/kg	玄米:500円/kg	玄米:550円/kg

表3 調査農家の合鴨部門（調査圃場）

	A農家	B農家	C農家
購入先	県外孵化業者	県内孵化業者	県内孵化業者
購入価格(円/羽)	300・500	500	500
購入品種	合鴨・チェリバレー	合鴨	合鴨
水田放飼期	7月18日	7月6日	6月11日
放飼羽数	13羽/10a	25羽/10a	20羽/10a
管理方法	電気牧柵+網	電気牧柵+網	電気牧柵
放飼中の飼料	くず米(3kg/日)	くず麦(5kg/日)	くず米(1kg/日)
水田引上げ期	9月5日	9月14日	9月3日
引上げ後の管理方法	ハウス内に 電気牧柵+網	ハウス内	刈取跡地に 電気牧柵
販売先	個人・生協・特裁米の会員	地元の農業祭り	地元の農業祭り
販売価格(円/羽)	1,300~3,500	無料	無料

【その他】

研究課題名：合鴨水稲同時作の実態調査及び現状分析

予算区分：経常

研究期間：平成4年度（平成4年）

研究担当者：横山利幸、末信真二、巖本弘之、川村富輝、西尾祐介、川口 進、

山室 実、石丸知道

発表論文等：平成4年度 九州地域試験研究成績・計画概要集（農業経営）、九州農試